

6 マッチング会における参加 NPO プレゼン資料

本事業の流れとして

- ①「NPOアプローチ講座」にてプレゼン資料作成
- ②「NPOプレゼン講座」にて企業へのプレゼンのための手法の取得および練習・リハーサルを行う
- ③「NPOと企業との協働マッチング会」にてNPOから企業へ向けて実際に協働に関するプレゼンを行うと進めたが、その際に使用した参加NPOのプレゼン資料を以下に示す。

参加NPO13団体

- 01 ■特定非営利活動法人 いいざかサポーターズクラブ
- 02 ■特定非営利活動法人 循環型社会推進センター
- 03 ■特定非営利活動法人 体験型未来づくりネット
- 04 ■特定非営利活動法人 ビーンズふくしま
- 05 ■特定非営利活動法人 ふくしまバリアフリースペースセンター
- 06 ■南相馬市市民活動サポートセンター
- 07 ■NPO法人 会津の文化づくり
- 08 ■NPO法人 裏磐梯エコツーリズム協会
- 09 ■NPO法人 喜多方市民活動サポートネットワーク
- 10 ■NPO法人 いわき鳴き砂を守る会
- 11 ■NPO法人 小野自然倶楽部
- 12 ■NPO法人 劇団スターキャスト
- 13 ■NPO法人 マグノリアの灯

01 特定非営利活動法人 いいざかサポーターズクラブ

- 団体名：特定非営利活動法人 いいざかサポーターズクラブ
- 所在地：960-0201 福島県福島市飯坂町字湯沢26番地
- TEL：024-529-6125
- FAX：024-529-6126
- E-mail：info@iizakasupporters.com
- URL：http://iizakasupporters.com/

以下は11月29日（水）福島会場でプレゼン資料です



発表者：金沢 次郎



～～～設立のきっかけ～～～

- 飯坂町では、高度成長期をピークに観光客が半減、町内には経営不振や後継者不足などの要因で廃業した旅館、商店が点在。
- 10数年前から住民と行政が協働で、和風を基調とした美しい街並み整備や、住民主体によるイベント開催など、街づくりの機運が高まる。

～～～団体の目的～～～

- 地域資源を後世に、守り伝えると共に、新たな地域の特性を生かした観光産業の調査・研究、企画、普及、啓発。
- 観光客や地元住民によるコミュニティ空間の形成。
- 飯坂町の持続的な発展に尽力する人材の育成。



私たちの思い、考え

▶ 地域の課題

- ◆ 飯坂温泉へ集客。
- ◆ 東京オリンピック、パラリンピックも踏まえて、インバウンド対策。
- ◆ 観光客のニーズ合わせたアクティビティ及び、飯坂温泉街で観光客や市民が楽しめる空間の開発及び提供。



★ 目指す地域の姿

～～～観光客も市民も誰もが、
住んで歩いて楽しい街～～～



活動紹介

- まちづくりの推進を図る活動
 - 冒険あそび場運営事業
 - ・子どもの屋外での自由遊び場の設置、運営
 - 心も体も元気で過ごすための支援事業
 - ・飯坂復興公営住宅での健康サロン活動
 - ・復興公営住宅での冒険遊び場事業
- 観光の振興を図る事業
 - 摺上川ダム湖でのカヤックツアー
 - 茂庭広瀬公園でのバーベキュー
 - 摺上川ダムを活用した観光誘客
- まちづくりに関する連携事業
 - ★飯坂地域まちづくり計画推進懇談会参画
 - ★福島市民活動サポートセンター運営協議会加盟
 - ★福島市レクリエーション協会加盟
 - ★子どもが自然で遊び楽ネット加盟
- 学術、文化、芸術、スポーツにて振興を図る活動
 - 第2回 茂庭湖TTレース
 - ・茂庭湖ラインでの自転車タイムレース
 - 第4回 夏モニカツ（今年度より実行委員会）
 - ・茂庭広瀬公園での子どもの自由遊び、クラフトワークショップやライブ、摺上川ダム環境での打上花火を行う夏のフェスティバル
 - SUPヨガ体験 in 飯坂温泉
 - ・スタンドアップパドルボードで行うヨガの開催
 - 第10回 湯のまち飯坂・茂庭湖マラソン
 - ・摺上川ダム周辺にてフルマラソン大会の事務局
 - ふくしま手織りフォーラム
 - ・福島市教育委員会と共に茂庭のしなだ織を含めた福島市の手織り文化の体系化と文化財登録を目標プロジェクト参画。
- 地域の魅力を普及拡大する為の宣伝事業
 - モンベルフェア
 - ・福島市観光課が参加する（株）モンベルのアウトドアフェスティバルに参加
 - 東北ビジネスマッチ2017
 - ・東北地域の行政、企業、法人等が参加するビジネスマッチ
- 目的を満たすためのその他の事業
 - ★平成29年度チャレンジインターンシップ/福島県
 - ・大学生インターンを夏季期間中に1週間程度受入



地域、住民、ボランティア、参加者の反応や変化



カヤックツアー & バーベキュー

・福島市内で手軽に体験できる、新たなアウトドアレクリエーションとして観光客や市民の皆様にも、自然を満喫しながら楽しんでいただいております。



夏モニカツ

・開催を重ねるごとに、参加者が増え、次年度の開催を望まれている。
・参加していない市民の方々からも、参加したいイベントと期待されてきた。



冒険ひろば

・学童クラブの指導員さんから、冒険ひろばに参加したら、指導員さんが、子ども達に対して怒ることや大声をあげる回数が減った。また、子ども達のなかでも自発性が出てきたなどの、変容がみられたと言った、ご意見を頂いております。



心も体も元気で過ごすための支援

★復興住宅の皆さん
・毎回、楽しい活動を行って来て助かっている。
・自分たちでは、開催する事が、難しいので引きこもり防止にも、繋がるので助かっている。
★復興住宅の町役場や社協
・復興住宅で支援している団体として、評価していただいております。



協働に向けて

活動・組織での悩み困っていること

- ◆活動情報の発信力不足
イベントやアクティビティ等の活動についての情報の発信力が弱い。
- ◆人材不足
事務及び各事業にてスタッフ不足。
- ◆新たな事業の取り組み
観光客や市民が集まれる、コミュニティ作りのための調査、企画、立案、運用について。

企業と協働したいことサポートしてほしいこと

- ★活動情報の発信にサポート
 - ・インターネットやSNSの活用
 - ・指導や人材派遣
 - ・法人の活動情報をメディア（雑誌、新聞、テレビ等）での掲載及びコラボ企画への支援
- ★人材及び新たな事業の取り組み
飯坂温泉にて、観光客や市民が楽しめる空間を一緒に、調査、企画、立案、運用を行う。

企業に向けてメッセージ

観光客も市民も誰もが、住んで歩いて楽しい街づくりを目指して、2008年より飯坂町民をはじめ、旅館、観光協会、商工会や関係各所と共に活動してきました。

少しずつですが、当法人の活動も認知されて各イベントや、摺上川ダム（茂庭湖ダム）での新たなアクティビティ、カヤックツアーを楽しんでいただいております。

来年度は、10年目にはいる当法人において、さらなる飛躍をはかる年と位置付けて、企業の皆様と共に新たな視点からの取り組みを行うことで飯坂町（飯坂温泉）に賑わいを取り戻したいと思っております。そのためにも、私達には、無いアイデアやマンパワーを企業の皆様と共有できれば、より良い地域を育むことで円滑な社会になると信じておりますので、企業の皆様には、ご理解ご協力の程よろしく申し上げます。

02 特定非営利活動法人 循環型社会推進センター

- 団体名: 特定非営利活動法人 循環型社会推進センター
- 所在地: 〒960-8061 福島市五月町4番25号
福島県建設センター6階
- TEL: 024-524-2500
- FAX: 024-524-2450
- E-mail: qqou8ww9k@mist.ocn.ne.jp
- URL: <http://npo-junkan.jp/>

以下は11月29日(水)福島会場でプレゼン資料です

特定非営利活動法人循環型社会推進センター ちいきの茶の間“ふるさと”



発表者: 飛田祐子/渡辺仁美

1

●設立のきっかけ

高齢化に伴い介護が必要な高齢者や、介護する家族に対して、主婦の小さな力で何か手助けができないか...
「おたがいさま」の助け合いができる地域づくりを目指し立ち上げたのがきっかけです。

●団体の目的

蓬萊地域にお住まいの高齢者を対象とし、自立した生活が出来るようにするための手助けや、介護保険適用外のサービスを提供することで地域福祉の向上を目的としています。



2

私たちの思い、考え

■地域の課題

～蓬萊団地において～
・高齢化により自立した生活が出来ない

例えば...
・一人で病院に行けない
・一人で買い物が出来ない
・家事が出来ない

●目指す地域の姿

地域で情報の共有化
孤独死が数多く報じられている中で、
孤独死を防ぐため地域包括センター・民生委員と連携を図り、身近で気軽にサービスを提供できる場所を作りたい。
困った時、身近で助け合いができる地域社会を目指していきたい。

3

活動紹介

- ・病院送迎
- ・配食サービス
※毎日の配食により利用者の様子を確認している
- ・デイサービス
- ・サロン開設(手芸教室・健康麻雀)
- ・子育て支援
- ・イベント(BBQ・クリスマス等)
- ・フリーマーケット
- ・家事手伝い
- ・庭木の手入れ



4

地域、住民、ボランティア 参加者の反応や変化

- ・ボランティアスタッフの声
主婦の集まりが、ご近所の困っている方へ
よりよいサービス提供が出来るよう
勉強しながら経験を重ね、親身に対応している。



- ・利用者の声
身近に家族がいないため、何かと困った時はふるさとに連絡できても安心。
自宅で一人の時間が多く ふるさとに来れば利用者、スタッフと会話ができてとても楽しみ。

手芸教室
健康麻雀
の様子



年に数回
イベントを開催



5

協働に向けて

活動・組織での悩み 困っていること

- (1) 人材不足
 - ・病院送迎時(受診付添)
- (2) 設備が不十分／食材の経費
 - ・手摺り、すべり止め
 - ・低価格でまとめ買いした食材の保管

企業と協働したいこと サポートしてほしいこと

- (1) ボランティア参加への周知
- (2) 設備や材料の協力
 - ・不要になった介護用品など・・・
 - ・大量生産や賞味期限が近く廃棄となる
食材の提供など・・・
- (3) 広報協力
 - ・パンフレット広報協力、手芸品販売協力
※海外へ贈答した布ぞうり
(古着の再利用)



6

企業に向けてメッセージ

地域福祉の向上を目的に、主婦の集まりからスタートし、12年かけてようやく「困った時は“ふるさと”に助けてもらおう!」と、知名度も上がり、地域の方々から信頼していただけるようになりました。福島市内でこのような活動をしているのは“ふるさと”だけです。今後介護保険制度改正によりふるさとの活動がより人々の役に立てることと存じます。活動内容に賛同していただける企業様と、まずは繋がりを持たせていただき、将来的に協働事業として、より暮らしやすい地域社会を共に目指していきたいと考えております。企業の皆様には活動へのご理解とそそご協力をお願いいたします。

7

03 特定非営利活動法人 体験型未来づくりネット

- 団体名: 特定非営利活動法人 体験型未来づくりネット
- 所在地: 〒960-8133 福島県福島市桜木町2-12
フィオーレ桜5-701
- TEL/FAX: 024-533-8180
- E-mail: miraizukuri@mirror.ocn.ne.jp
- URL: <https://miraizukuri.jimdo.com/>

以下は11月29日(水)福島会場のプレゼン資料です



●設立のきっかけ

東日本大震災
未曾有の大震災のあの日から絶望の淵に
立たされた孤独な心が呻き苦しんだ1年間、
誰の心にも新しい想いの命が芽生えたは
ず、誰もが手を差し伸べあい支え合い活
きる事を望んだ、忘れない命の尊さを！誰も
限りある命幸せで有って欲しいと願うばかり。
これ以上の犠牲が有ってはならないと、
心に深く刻み支援活動を立ち上げました。



●団体の目的

誰もが幸せな人生を送る為の支援
1、生活総合支援
2、相談と解決
3、常設の相談所・宿泊型施設運営
4、自立支援を目的とする。



活動紹介 【生活再建相談】自立支援型

シェアハウス
オープン・ハート湯野



高齢者・介護2世同居可能
訪問介護制度摘要
・身寄りがない
・ひとり暮らしが不安
・仕事のおあずかり

緊急こども預り 相談業務
自立支援型



生活再建相談・支援
支援 ・住居確保
・生活支援
・身元保証
・就労支援
管理 ・金銭管理
・財産管理
・終末相談

シェルターハウス
オープン・ハート瀬上



18歳～60代迄同居支援

緊急一時こども預り
・父母の入退院時
・父母の精神疾患時
・およぼれの日
・美容室や買い物時
・休日なのに仕事が終わらないとき等

生活再建相談業務や講演会を大和田新氏と供に郡山・福島・伊達・須賀川にて開催
国土交通省平成28年度冊子に掲載されました。

地域、住民、ボランティア 参加者の反応や変化

相談者から支援する立場へ



相談者の自立活動支援

- ・各地相談会開催時の活動
- ・シェアハウスでの配食支援
- ・資格取得でシェアハウス入居者の介護支援を実施自立を果たす
- ・パソコン指導

避難者から支援者へ 命の募金参加



私たちの思い・考え

▶地域の課題

子育て・介護重複期
30代～50代の
介護離職をサポート

課題1 軽度介護者の介護施設の不足

課題2 子育て期と介護期の重複する
若者世代の、介護離職

課題3 共働き世代の放課後又は一時
こども預り重要な課題である。

●目指す地域の姿

課題1 小規模複合施設の地域開設
シェアハウス・シェルターハウス



課題2 家族単位から地域単位の支援
みまもり地元のシニア起用を目指す

課題3 50代からアクティブシニア
地域ごとにボランティア人員の養成
子育て介護重複世帯を支援



協働に向けて

活動・組織での悩み
困っていること



企業と協働したいこと サポートしてほしいこと

- ・ 困っていること
- ・ 現存の施設の整備が必要
- ・ 国土交通省の「セーフティネット法」に基づく活動だが予算化が進んでいない事や要配慮者支援のため運営資金の確保
- ・ ボランティアや協力者が少ない



- ・ 企業と協働したいこと
- ・ 入居者30名程度の施設として利用できる**会社の寮や官舎等使用していない施設の提供**を求めています。
- ・ **企業職員様ご家族の専用施設**協働運営
- ・ 弁護士・司法書士・不動産・葬儀社との協働
- ・ 将来新施設建設と協働運営

企業に向けてメッセージ

少子高齢化時代背景

一厚生労働省一

介護離職による生産性GDPの低下防御を施策

一国土交通省一

「セーフティネット法」に基づく住居の安定供給・要配慮者支援

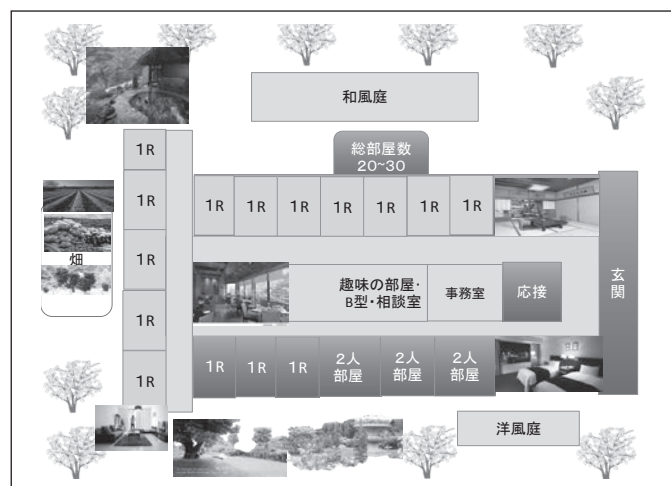
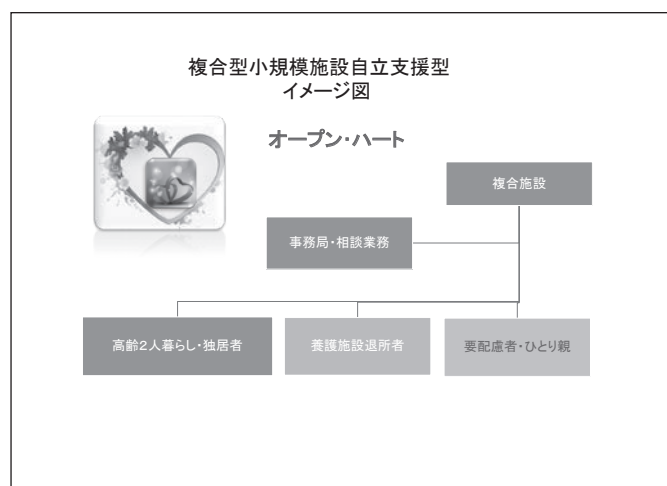
- 1、今後企業が直面する課題 ⇒ 介護離職の課題
 - 2、介護離職者の介護終了後の再就労、将来の生活圧迫への懸念
 - 3、安心して働ける職場環境づくりが整う
- 【企業様専属のシェアハウス開設】
既存施設入居は数年待ち**変わる重要な施設**

企業と供に地域に生きる

NPO法人体験型未来づくりネット

地域貢献

〒960-8133 福島市桜木町2-12フィオーレ桜5-701
TEL:0120-860-917 Email:mirai_0987@yahoo.co.jp
URL:https://mirai-zukuri.jimdo.com/
URL:http://miraizukuri.jimdo.com/



多くの課題解決複合型施設

複合施設の建設で解決できること

企業

- ・ 安心して働ける職場環境づくり(企業専門施設)
- ・ 介護離職の課題解決(GDP減少抑制)

地域

- ・ 「ちいきの我が家オープンハート」
地域ぐるみのコミュニティサロン展開
子育て支援・独居孤立・孤独死防止強化
高齢化に伴う障がい・障がい者B型就労支援

04 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

■団体名: 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま
■所在地: 〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5
■TEL/FAX: 024-563-6255
■E-mail: info@beans-fukushima.or.jp
■URL: http://www.beans-fukushima.or.jp/

以下は11月29日(水)福島会場でプレゼン資料です



特定非営利活動法人
ビーンズふくしま

平成29年11月29日
江藤 大裕(えとうだいすけ)



●設立のきっかけ

学校に行けない、学校に行きにくさを抱えた子どもたちのフリースクールから始まりました。学校に行けないというだけで、自信を無くした子どもたちにとって、ありのままの自分を認めてもらえる、「自分は大切な存在なんだ」という「自己肯定感」を育むことができる「安心できる居場所」が必要でした。ビーンズふくしまは、子どもたちが本来持っている「生きる力」を取り戻すことができる、そんな場所としてスタートしました。

●団体の目的

当法人は、不登校の子どもやひきこもりの青少年の親、市民、学生など広範な人々と協同して、不登校の子どもたちやひきこもりの青少年たちのために、その生き方と学習を支援するとともに、広く青少年が自分らしく生きるための支援を行い、それをもって社会の創造に貢献することを目的とする。



私たちの思い、考え

□地域の課題

- ・ 福島県の若年無業者(15歳～34歳)数
1万人/38万人 2.6%
- ・ 不登校・貧困・震災など様々な社会背景を抱えた子ども・若者にとって支援の手が届きにくい現状があり、スムーズに地域社会と繋がっているといえる状況ではない。

○目指す地域の姿

- ・ 子ども×若者×高齢者×NPO×企業×行政
- ・ すべてが繋がりがいい若者たちの力を中心とし、彼らの力が地域でいかされる社会を創りたい。

活動紹介

- フリースクールビーンズふくしま
当法人の始まりである主に不登校の子どもたちを対象にした居場所
- うつくしまふくしま未来応援プロジェクト、貧困対策事業
震災後の仮設住宅の学習支援や生活保護世帯の学習支援
- 「みんなの家@ふくしま」
福島の子を中心に、若者、地域の大人が集う多世代交流拠点
- ユースプレイスinふくしま
引きこもりや対人不安など様々な生きづらさを抱えた若者が交流やボランティア活動を主体的に取り組むことが出来る場
- ふくしま若者サポートステーション
若者の働きたいを応援する就労のサポート機関

今回、企業様と特に協働を希望するのは上記2事業



活動紹介



花植えボランティア作業



保育園お祭りボランティア



自分たちで収穫した野菜を使用したカフェの開催



リンゴ収穫体験



猪苗代湖清掃活動

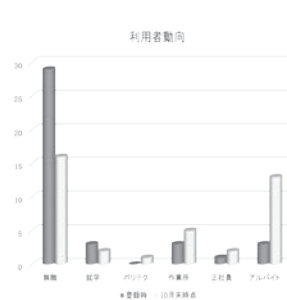


ビーンズ畑での畑作業

活動状況【ユースプレイスinふくしま】

	平成28年度	平成29年度	増減
参加人数	410名	667名	+257名
回数	89回	104回	+15回
平均参加人数	4.6名	6.4名	+1.8名
登録者数	33名	39名	+6名
		うち継続24名 新規15名	

活動後の変化



◇利用者の感想

- ・楽しい1年になった
- ・スタッフ・若者たちのやさしさがここにはある
- ・やりたいように1年を過ごせた
- ・みんなの明るさ、元気の良さで自分も引き込まれた
- ・皆さんと出会えてよかった
- ・遊びに疑問を持たずに遊びつくせた
- ・就活だけでなく楽しむことができた

◇利用者の今後の目標

- ・アルバイトや就職がしたい
- ・（参加者自身による）自主的活動を充実させたい
- ・いろんなことに挑戦したい
- ・学校に通いたい
- ・ゆっくりと外でできることを増やしていきたい

活動後の変化

参加者の多くは引きこもりや不登校、様々な困難や挫折を経験し一歩踏み出したいと思いつつ、他者との交流がない関係性の孤立に悩んでいる状況が多い。そんな彼らにとってユースプレイスという場があることで外に出る“きっかけ”となり、そして他者との経験・体験を紡いでいくこととなった。

様々な背景を持つ若者たちがまずは自分らしくいられる居場所に集い、自己肯定感を育み、そこから少しずつ自分なりの一歩を踏み出し始めた。コミュニケーション講座や料理企画で交流を深め、農作業や地域と関わるカフェやボランティア活動や地域のイベントに参加することで大きな自信をつけることができた。

また、仲間同士の関係性ができてくると自主的活動が発足し始めた。スポーツ活動を行う“運動部”が立ち上がり企画・運営・チラシ作りまで参加者自身で行う活動が始まる。それに呼応するようにほかの利用者も勉強や読書を中心とした“文化部”や“英語クラブ”などを立ち上げていく。様々な利用者が企画に関わることで横のつながりも一層深まっていく様子がうかがえる。

居場所では楽しむという経験を通して、仲間や環境の力で若者たちをフォローアップしてきた。結果として就労・就学や作業所へのリファールにつながっているが、何よりも就労意欲の出た若者が増加してきているのは大きな成果である。

協働に向けて

活動・組織での悩み、困っていること

- 震災後の福島において義務教育を過ぎ、福祉サービスも受けることができないいわゆる“グレーゾーン”の若者には支援の手が届きにくい。
- 居場所事業や就労支援事業は行政の委託である場合が多く、事業継続のための安定基盤(資金)がない。
- 若者の自立へ向けた社会参画の機会がまだまだ少ない現状がある。



協働に向けて

ボランティア

Ex. 草むしり、清掃作業、軽作業など

職場体験

若者の仕事体験及び雇用マッチング

農産物販売

場所、機会提供

イベント・シンポジウムの共同開催

共同商品開発

資金提供

企業様に向けてメッセージ

ビーンズふくしまは18年間活動してまいりましたが、地域の皆様、企業の皆様との連携という部分ではまだまだ充分ではないのが現状です。企業の皆様と連携を深め若者の一歩を支えることのできる地域、たくさんの笑顔を生み出すことのできる地域を共に創っていきたく考えています。

また今回の協働がぜひ企業様にとっても価値あるものになりたいと考えています。子ども、若者、地域のためにぜひとも企業の皆様にはご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。



05 特定非営利活動法人 ふくしまバリアフリースターセンター

■団体名: 特定非営利活動法人 ふくしまバリアフリースターセンター
 ■所在地: 〒960-8031 福島県福島市栄町1-1 福島駅西口2F
 ■TEL/FAX: 024-531-7382
 ■E-mail: fukushima-bftc@bz03.plala.or.jp
 ■URL: <http://www.fukushima-bftc.jp/information/>

以下は11月29日(水)福島会場でのプレゼン資料です

特定非営利活動法人 ふくしま バリアフリー ツアーセンター

佐藤 玲子・林 宏・佐藤由香利



JR福島駅西口2階(新幹線改札口向い)



●設立のきっかけ

超高齢化社会を迎え
 高齢になっても
 身体が不自由になっても
 障がいがあっても
 花とくだものといで湯の
 福島へ
 安心して宿泊・観光に
 来て！



●団体の目的

高齢者・お体の不自由な方が
 安心して楽しく旅行ができるよう

- ・バリアフリー情報を提供
- ・バリアフリー相談応需
- ・バリアフリーの付加価値提案

私たちの思い、考え

身体障害者366.3万人、知的障害者54.7万人、精神障害者320.1万人
 16人に1人が、現在の生活の中でご不便を感じている

現状

バリアがあっても
変えられない

今後

障がい(バリア)は
価値(バリュー)に
変えられる

あなたの傍に16人に1人がいる！
 その人たちが、多くの仲間を
 連れてくる！



活動紹介

一人ひとりの
ハンディに合わせた
快適な旅の提案と紹介

- ① 観光・宿泊施設等の
バリアフリーの情報発信・提供
- ② 観光・宿泊施設等の
バリアフリー調査
- ③ 観光団体・行政・企業等との
バリアフリー普及、宣伝
- ④ 高齢者・障がい者への
旅行支援による地域活性化
⇒花見山車いすサポート事業



地域、住民、ボランティア、 参加者の反応や変化

- バリアフリーおもてなし勉強会
 - 花見山 花案内人さん向け研修
 - 福島学院大学生ボランティア
 - バリアフリーおもてなし博
 - 福島県旅館組合連合会講演
- ボランティア参加者の反応

「障がい者からの感謝の気持ちや
笑顔に触れ、やりがいを感じた」

「障がい者の視点に立って、もっと
考えたいと思った」
- 花見山 車いすサポート事業
 
- 花見山 車いすサポート観光客の反応

「この素晴らしい活動を知るのに苦労した。
ネットで探しても見つからない」

「この“介助ありのお花見”にまた次回
も参加したいし、周りの人にも伝えたい」

協働に向けて

**活動・組織での悩み
困っていること**

- ① 広報力不足
センターの活動を知ってほしい！
バリアフリー観光の情報発信力不足
- ② 普及PR力不足
バリアフリー施設を増やしたい！
心のバリアフリーを広めたい！

**企業と協働したいこと
サポートしてほしいこと**

- ① 広報協力
カンムリ番組を作りたい！
企業HPにバナーを貼らせて！
バリアフリー観光や施設の情報発信
「ふくしまバリアフリーツアーセンター」
知名度UP！
- ② 普及PR協力
ブルーペイントプロジェクト
みんな(市民や社員)で
駐車場をブルーペイント塗装
ペンキ代だけ負担して！



山形バリアフリー観光ツアーセンター 画像転載

企業に向けてメッセージ

バリアフリーは顧客満足度をUP！

- ① バリアを少なくする
⇒「行けた！」感動 ⇒ 周りも感動 ⇒ 最良の顧客
- ② 高齢者や障がい者の方は
必ず複数で来る ⇒ 経済効果
- ③ バリアがないことは
ベビーカーの需要も見込める

何をどうすれば
バリアフリーになるのか？
ズバリ提案！

廃業寸前の旅館を
バリアフリー改装で
奇跡の集客10倍達成！
伊勢志摩BFTC



来る2020年オリンピック・パラリンピックへ
私たちの経験と情報をぜひ活用してください！

06 南相馬市市民活動サポートセンター

■団体名：南相馬市市民活動サポートセンター
 ■所在地：〒975-0003 福島県南相馬市原町区栄町2丁目20
 ■TEL/FAX：0244-23-5420
 ■E-mail：saposen@minami-soma.com
 ■URL：http://www.minami-soma.com/saposen/

都合によりマッチング金は欠席となりました。

南相馬市市民活動サポートセンター



発表者：天野淳子／遠藤佳緒里

●設立のきっかけ

- ・ 公益活動を行う市民活動団体を総合的に支援するための、市民活動に係るコーディネートとアドバイスなど、多様な支援ができる場の設置が必要となったのがきっかけとなります。



●団体の目的

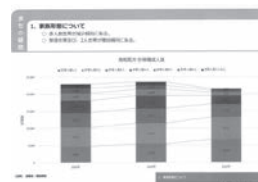
- ・ NPO・市民活動団体のための各種情報の集積や広域交流のための拠点施設



私たちの思い、考え

▶地域の課題

- ・ 震災後のコミュニティの喪失



一般社団法人 Bridge for Fukushima

●目指す地域の姿

- ・ 震災前より充実されたコミュニティの形成と社会生活の充実。



一般社団法人 Bridge for Fukushima

活動紹介

1. 南相馬市内外の活動団体との交流支援

市内の活動団体同士とのマッチングや、市外団体とのマッチングの支援

2. 運営・事業スキルアップのための講習会・講座

各団体に活動するうえで必要とされる講座や講習会の実施。

3. 地域への協力

地方祭、商店街のお祭りへの協力等



地域、住民、ボランティア、参加者の反応や変化

1. 南相馬市内外の活動団体との交流支援の成果

- ・サポートセンターでの登録団体同士の協働での企画のスタート
- ・南相馬市と市外団体との交流

2. 運営・事業スキルアップのための講習会・講座の参加者の声

- ・分かり易い講師の方の説明で混乱せずに勉強することができました
- ・次の作成時に参考にさせていただきます
- ・とても分かり易い講座でした

3. 地域への協力への変化

- ・サポートセンターへ気軽に入ってもらい、センター内の様子や市民活動を市民に知ってもらえることができた



協働に向けて

活動・組織での悩み困っていること

広報力不足

各種セミナー、イベント等に対する集客について市民への広報力が弱い

情報発信力

市民活動サポートセンターの市民への理解と周知がなされていない
市民活動団体の情報発信不足



企業と協働したいことサポートしてほしいこと

広報協力

当センターの発行物の設置や掲示、HPのバナー等でのサポートセンターとのリンク。
事業内容と活動内容の周知を市民を含む広範囲での拡散。
広報作成の協力。



企業に向けてメッセージ

- ・当サポートセンターでは、NPO団体、市民活動団体と企業との中間支援の役割も担っております。
当センターの登録団体の紹介の情報発信を進め、より多くの方に南相馬市の活動団体を知ってもらい、更に活動に参加出来る環境を整え、豊かな社会のためのサポートのご協力をお願い致します。



07 NPO法人 会津の文化づくり

■団体名:NPO法人 会津の文化づくり
 ■所在地:福島県会津若松市金川町15番20号
 ■TEL:090-4555-7347
 ■E-mail:K9m1y@yahoo.co.jp

以下は11月28日(火)会津会場でのプレゼン資料です

NPO法人会津の文化づくり



設立:平成17年9月認証
 理事長・築田直幸(学芸員)



●設立のきっかけ
 「会津ものしり検定」をはじめた
 33新書の発行...



◎ 団体の目的 ◎

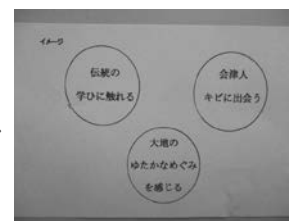
- ・ 会津流域の文化の構築につとめる。
- ・ 古代・中世・近世の会津の歴史をわかりやすく、ものしりで紹介し、明日のくらしにやくだてる。
- ・ 次世代の人びとに、会津の価値を伝える。

私たちの思い、考え

○地域の課題

- ・ まちがって、伝えられている会津の姿が、あちこちにみられる
- ・ まちがって受けとめていて、どうしようもないと思っている会津人が、多い現状
- ・ 地域や個人格差が多いが、仕事も趣味もなく暮している

◎目ざす地域の姿



活動の紹介から

◇温故知新の3シリーズ◇

- ・ 古代～会津仏都の根本をねづかせた僧徳一存在をクローズアップさせた。
- ・ 中世～輩名一族の研究をする会でシンポ・展示会の実施。
- ・ 近世～戊辰と明治展で、150年前の真実と教訓をみちびきだしている。
- ・ 各シリーズは独立させてきた



今、問うている会津の戊辰戦争



協働に向けて

○ 活動・組織での 悩み困っていること

- ・ NPO法人などの民間団体の活動の手助けになっていない既存（行政・常識）の組織の実情。
- ・ 人件費を生むことが困難で、二足のわらじでやっている。

◎ 企業と協働し、 サポートしてほしいこと

- 大きく一歩踏み出せる組織の体力（専従2名分）が欲しい。
- 企業よりの出向扱いにしていただけることによる手厚い支援をしていただきたい。
- 3か年間の活動を、ワン・ステップとする。

企業に向けてメッセージ

- ・ 戊辰戦争遺産プロジェクトのスタートは、平成30年4月より開始されます。
- ・ 立ち上げにあたり、無償ボランティアではない、組織の根本をしっかりとさせられる、手厚いご支援をしていただきたい。
- ・ それらは、
美しき会津の姿を再発進するための
実に150年ぶりの真の会津復興となる！

08 NPO法人 裏磐梯エコツーリズム協会

- 団体名: NPO法人 裏磐梯エコツーリズム協会
- 所在地: 〒969-2701 福島県耶麻郡北塩原村松原小野川原1092-65
裏磐梯サイトステーション内
- TEL: 0241-23-7860
- FAX: 050-7541-2411
- E-mail: info@eco-urabandai.com
- URL: <http://www.eco-urabandai.com/>

以下は11月28日(火)会津会場でのプレゼン資料です



NPO法人 裏磐梯エコツーリズム協会
会長 眞野 眞理子

設立のきっかけ

- ・平成15年
「多くの来訪者が訪れる観光地での取り組み」として環境省のエコツーリズム推進モデル地区となる
- ・平成19年～
地域住民が主体となって裏磐梯エコツーリズム協会を設立
- ・「エコツーリズム入門国立公園」として、自然や歴史、文化などに一歩踏み込み、深く学ぶ場として地域活動を展開する
- ・平成29年9月
継続事業を行う事を目的にNPO法人裏磐梯エコツーリズム協会を設立。さらに発展的な事業展開を目指していく

団体の目的

- | アクション | 詳細 |
|-------|-------------------------------|
| ①共有する | 資源を掘り起こして価値を共有する |
| ②伝える | 資源の価値を発信し交流を促進するための「伝える力」を育てる |
| ③守る | 利用により資源が傷つかぬよう自然や文化を守る |
| ④興す | 資源を活用し、地域の個性を生かした産業を興す |



活動紹介1

【モニタリング事業】

- ・毎月一回住民参加で自然環境の推移を記録。(五色沼、水質、花等)
- ・年1回、専門家と共に保全について検討し報告書を作成
- ・環境省や村と協働し特定外来植物の駆除活動を実施
- ・特定外来生物 ウチダザリガニの生態数観測を調査し、子供達向けの講座を開講



【出前講座・ツアー造成】

- ・掘り起こした資源を次世代や観光客に伝え共有
- ・歴史遺産や文化を解説するガイドとともに遺跡や施設をめぐる学ぶ講座を開講
- ・冬の流山をスノーシューで歩き磐梯山の噴火について学ぶ
- ・希少性のある花や昆虫など学術的観点から検証

活動紹介2

【特産品の開発】

- ・新トレッキングコースの開発
- ・地域資源の殖産



【地域イベントへの協力】

- ・ファミリーサイクリング
- ・エコナイトファンタジー雪祭り



【情報発信事業】

- ・磐梯山周辺地域の情報発信
- ・エコツーリズム通信・HP・FBの活用



私たちの課題1

地域の課題

- ・村民人口が減少し従来のイベントの催行が困難。イベントそのものを見直す時期...?
- ・各組織の横の連携が不十分⇒観光事業所等の意欲が減退



- ・地域の各業種と連携
- ・活動を広く展開していくため行政との連動、協働を密にする
- ・地域の資源を守り磨き、継続して活用する事業を展開
- ・それによって地域づくりの推進を図る

私たちの課題2

雇用問題

- ・若い人達の収入が安定するには...?
- ・観光地ゆえの季節変動に対しては...?
- ・協会の理念を理解してもらうスタッフを増やすには...?



- ・個性的な産業を興し年間を通じた経済活動ができる
- ・空き家対策などの活用を行政に提案
- ・エコツーリズムガイドの育成・スキルアップを図る

サポートをお願いします！！

【特定外来生物の駆除活動】 → 参加人数の減少

- ・オオハングソウ
- ・ウチダザリガニ
- ・コカナダモ



人手不足のためにどんどん繁殖・繁茂している



【飲み残しゼロ運動】

- ・裏磐梯は水源の源流域のためなるべくきれいな状態で下流に流す意識づけをする
- ・コップに残ったビールやジュース、お味噌汁などを残さないように飲み干す

→ 猪苗代湖の環境悪化

水源である裏磐梯 からできるだけ汚水を流さない



協働に向けて

①私たちの貴重な財産であるモニタリング報告書の送付
外来生物駆除活動等のプロジェクト経過についてお知らせします！

②定期的に発行しているエコツーリズム通信を送付
楽しいツアーや講座などに参加し自然と一体化できる体験をぜひ！！

③企業人としてのスキルアップのために
自然を学び、生きる力を身に着けたスキルの高い社員を育てるお手伝いをします！！



ご支援・ご協力をお願いします

【寄付・協賛のお願い】

- ・事業を推進していく上で力になるものであり健全な運営を行う一助になる
- ・様々な活動の多様性や幅を広げることができる

【各企業のメリット】

- ・イメージ戦略に合致させCSRとして活用できる
- ・市民の動向を知ることができる
- ・企業(社員の方々)の気づきになりうる



ご清聴ありがとうございました

09 NPO法人 喜多方市民活動サポートネットワーク

■団体名: NPO法人 喜多方市民活動サポートネットワーク
 ■所在地: 福島県喜多方市字水上6846 喜多方市厚生会館内
 ■TEL/FAX: 0241-22-0603
 ■E-mail: info@shiencenter-kitakata.jp
 ■URL: http://www.shiencenter-kitakata.jp/

以下は11月28日(火)会津会場でのプレゼン資料です

NPO法人 喜多方市民活動サポートネットワーク (愛称: さぼねっと)



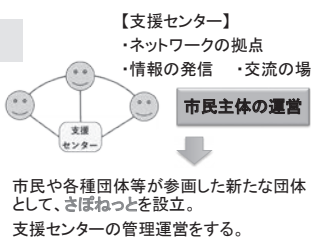
【発表者】 渡部 美加 / 中島 共宣

1

●設立のきっかけ



さまざまな市民活動団体が活動をしているが、横のつながりが無い。
プラットホームになる団体があれば...



●団体の目的

喜多方市民が互いに支え合うための各種のボランティア活動や、より成熟した社会を目指して行う市民活動等の広範なネットワークを構築し、その拠点としての役割を果たすと共に行政・企業・各種団体・個人と連携し、地域が抱える諸問題を解決するための事業を行い、地域発展に寄与することを目的としています。

2

私たちの思い、考え

■地域の課題

【少子高齢化】

- 地域で活動する団体の高齢化が進み、活動する人・活動資金などが減少。
- 若者の参加が少なく、後継者が不足。

【人間関係の希薄化】

- 少子高齢化や核家族の増加など様々な要因で、地域とのつながりや人間関係が希薄になってきている。
- 地域のためにみんなで何かをしようという意欲の低下。

●目指す地域の姿

- ☆愛着と誇り
- ☆「あったらいいな」を生み出しながら自発的・主体的に行動
- ☆地域課題の解決のために市民活動団体や行政、企業等が連携



3

活動紹介

【自主事業】

- ・市民活動フェスティバル
- ・パソコン、スマホ教室
- ・事務委託事業
- ・交流事業



【喜多方市市民活動支援センターの運営】

- ・市民活動団体の実態調査
- ・情報交換会の開催
- ・HPや広報紙による情報発信
- ・各種講座の開催



【喜多方市厚生会館・中央公民館分館の指定管理】

4

地域、住民、ボランティア、参加者の反応

・市民活動フェスティバル参加団体の声

「団体間のつながりを大切にして、一体感のある行事で楽しかった」「地域のかたとのふれあいが新鮮で楽しかった」「会員が増えた」

・情報交換会参加者の声

「いろいろな活動を知ることができてよかった」「団体同士の横のつながりができてよかった」

・パソコン教室参加者の声

「技術の習得だけでなく、参加者同士の交流の輪が広がった」

・交流事業(夏休み宿題お助け広場)参加者の声

「いろいろな学校、学年、世代の人と交流ができた」「おじさん・おばさんに宿題を教えてもらえてよかった」「子どもたちと楽しく過ごせた」



5

協働に向けて

活動・組織での悩み 困っていること

◆認知度が低い

さぼねっと及び喜多方市市民活動支援センターの存在、活動内容を知っている人が少ない。

◆広報力不足

さまざまな事業を行っているが、情報が広く伝わっていないため、参加者が少ない。

◆人材不足

スタッフが少ないため、できることに限りがある。



6

協働に向けて

企業と協働したいこと サポートしてほしいこと

◆広報協力

「さぼねっと」という団体の存在、活動内容を知っていただき、サービスの利用や実施事業への参加を多くの方に呼びかけたい。

→広報物の設置や掲示など

◆情報提供

NPOや個人、企業等の間に立ち、さまざまな活動への橋渡しをしていきたい。

→企業のCSR・CSVの取り組みや、市民活動団体との協働への意欲などの情報提供

◆ボランティア協力

イベント実施の際、これまでできなかったことをやりたい。

→ボランティアスタッフとしてイベント当日のお手伝い

7

企業に向けてメッセージ

さぼねっとは、喜多方市で中間支援を行っているNPO法人です。さまざまな取り組みを通して、市民活動団体とのネットワークづくりに努め、皆さんの活動がさらに活発になるよう、お手伝いをする活動をしています。

また、地域の課題に取り組む市民活動団体や、地域のために活動したいと思っている企業の皆さんの橋渡しをしていきたいと考えています。みんなが力を合わせ、よりよい地域となるような活動ができればいいなと思っています。

**私たちの活動をご理解いただき、
ぜひご協力くださいますよう
お願いいたします。**



8

10 NPO法人 いわき鳴き砂を守る会

■団体名：NPO法人 いわき鳴き砂を守る会
 ■所在地：福島県いわき市内郷高坂町八反田16番地の7
 ■TEL/FAX：0246-27-5728
 ■E-mail：9xt2vi@bma.biglobe.ne.jp
 ■URL：http://www.nakisuna.com/

以下は12月1日(金)いわき会場のプレゼン資料です

NPO法人 いわき鳴き砂を守る会

・発表者氏名 事務局長 小堀 亨

【全国鳴き砂マップ】



○鳴き砂の浜は減少傾向
 全国に20ヶ所あまりの「鳴き砂」の浜がありますが、50年くらい前には60ヶ所位ありました。環境汚染が進んできたのが原因でしょうか。

○鳴き砂の保護活動必要
 今ある鳴き砂の浜を減らさないように保護活動が必要です。

○太平洋側最南端の鳴き砂
 いわきの海岸は、太平洋最南端の鳴き砂の浜として貴重な存在

2

●設立のきっかけ

- 鳴き砂の研究がきっかけ
 平成8年7月に「鳴き砂並びに、その保全について研究すること」などを目的として設立
- 環境汚染に弱い鳴き砂
 生活排水などの環境汚染により、減少することを発見した。
- 鳴き砂の生成
 花崗岩が400万年以上の時間をかけて風化、石英が残って鳴き砂になった

2017/9/10 いわきブラージュ 砂像



●団体の目的

- 次世代への継承
 地域住民と共同で保護活動を行い、鳴き砂を健全な状態で、次世代に引き継ぐこと。
- 砂を通してコミュニケーション活動
 砂絵教室、砂の像づくり、砂場遊びなどを通して砂との繋がりを創出していく

2017/8/22内郷宮沢団地砂絵教室



活動紹介

1.鳴き砂海岸の清掃活動

年2～3回程度会員を中心に海岸の清掃活動を実施している

2.海岸でのイベントの開催

トヨタ(アクアソーシャルフェス)と協賛
 (勿来海岸、四倉海岸)
 ・海岸清掃、鳴き砂・放射線量調査・砂の像づくり・砂遊び等

3.砂絵教室の開催

市内の公民館やイベント等で開催
 月に1～2回程度

4.学校等での出前講座の実施

これまで、四倉小学校、海星高校での総合学習の一環として、鳴き砂講座を実施している

5.いわき駅前でのイベント開催

～「いわきブラージュ」～

→福島第一原発事故後、屋外で遊べなかった子供たちに砂場を提供。多目的スペースに砂10mtを搬入し、『子どもの砂あそび場・砂像づくり・砂絵教室』を3日間実施。2日目には、高校生によるフラダンスの協賛あり。
 →3日間観客数 3,169人
 (昨年度 2,648人)

→終了後、砂を市内幼稚園・保育所に無料配布。

6.その他

- 他団体との交流・支援
 市内の環境関連団体のイベント等での支援活動
- NPOセミナー等への参加
- いわきにジオパーク誘致活動

4

私たちの思い、考え

▶団体の課題

課題1

砂浜の環境保全をするために、NPOとして活動しているが、その目的を完遂しているとはいえない。

○人材不足や資金不足などの問題がある

課題2

現在の企業との共同事業は、1日の日程で終了してしまう

○年間を通しての事業を模索



●目指す団体の姿

- ①組織の基盤強化→認定NPO法人を目指す。
 - ②コミュニケーション能力や、情報発信力を備えていく
 - ③自団体で解決不可能な社会的課題の対処法をマスターする
 - ④ネットワークの活用
- 多様な企業との共同事業で、その解決に当れる地域社会創造を目指す。

2017/9/8 いわきブラージュ
幼稚園児たちが砂場で遊ぶ姿

地域、住民、ボランティア、
参加者の反応や変化

NPOセミナーの参加

・組織運営の知識を得ることができ、自団体の基盤強化に役立つ

・NPOのつどい

普段接点のない地域、他分野との交流で、今までと違った視点で自団体の活動を分析することができる。

・ボランティア参加者の反応

短大生、高校生、中学生に参加して頂き特に中学生は、我々の活動に共鳴して頂き、今後の協働を約してくれました。

・企業等のマッチング事業参加

企業との接点がないので、このようなマッチング会に積極的に参加し、プレゼンすることで、団体の成長を目指す。

2017 いわきブラージュ
中学生ボランティア



協働に向けて

活動・組織での悩み

困っていること

(1)専門知識の人材不足

人材育成や資金調達・組織マネジメントについての専門知識のある人材が不足している。

(2)情報発信力の不足

WEBやSNSによる活動などの情報発信について、テクニカルな知識や情報が不足している。

企業と協働したいこと

サポートしてほしいこと

(1)広報協力

企業の営業ネットワークや各地の支店営業所にて、NPOのイベントやボランティア募集、寄付のお願いの告知などの広報の協力をお願いしたい。

(2)企業とのコラボレーション

NPOと企業との協力体制を構築し、お互いに発展できる関係を築く。

企業に向けてメッセージ

地域の社会的課題解決のために活動するNPO

地域の社会貢献活動を実施する企業

○今すぐには協働することは難しいかもしれませんが、少しずつ接点を持つことで、徐々に信頼関係を築き、やがては、みんなが幸せになる地域社会の創造に貢献できる協働事業として実施できると信じています。

○『NPOいわき鳴き砂を守る会』は、NPOと企業との接点を可能な限り多く作っていきたくと考えております。

○企業の皆様には今後ともご理解とそしご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



11 NPO法人 小野自然倶楽部

■団体名: 特定非営利活動法人 小野自然倶楽部
■所在地: 福島県小野町大字小野新町字知宗5番地2
■TEL/FAX: 0247-72-3597
■E-mail: t1005@silver.plala.or.jp

以下は12月1日(金)いわき会場でのプレゼン資料です

特定非営利活動法人 小野自然倶楽部

代表理事
大方 俊浩



●設立のきっかけ

小野町内において2年続けて不審火による火災で5人の子どもの命が失われました。(おそらく火遊びと思われる)。翌年に別町村ではありますが、氷の張った用水池で幼児2人が水死するという事故があり子供達の危機意識と自然環境への認識不足のため尊い命が奪われていると考え、この団体を設立しました。



●団体の目的

小野町を中心とした田村郡地域とその周辺の子どもたちに対し、地元での環境学習、自然体験活動、食育体験を通して、地域の自然環境保全、自己の危機意識の確立などを目指して、その意識を次世代まで引き継いでいけるように手助けすることを設立の目的としております。



私たちの思い、考え

▶地域の課題

今、日本中で抱えている問題でもありますが、この地域でも少子化が年々進んでおり、学校でも一学年一クラスを維持していくのが大変です。そんな中でスポ少なども野球やサッカーなどの団体球技で人数が集まらずに廃部に追い込まれております。その為当団体は、個人や少人数でも行える野外スポーツを中心として活動しておりますが、そんなスポーツに臨んで使用する道具が高価です。オリンピックなどにも採用されている自転車、クライミング、カヌーなどです。今、これに似せて活動を行っておりますが資金的に難しいのが現実的です。

●目指す地域の姿

これから、若者の人口比率が増えてこないと考えれば、今の子どもたちをいかに成長させるか、そして将来地域の担い手として活躍してもらうにはどうしたらよいのか、まだ結論は出ておりませんが、子どもの内から地域の自然に触れさせてその良さを体験してもらうのが一番の近道と考え活動しております。



活動紹介

1. みどりとのふれあい活動①



活動紹介

1. みどりとのふれあい活動②



2. 食育活動



活動紹介

3. 地域交流活動



4. 自然の大切さの育成活動



地域、住民、ボランティア、 参加者の反応や変化

今、小野町の緑とのふれあいの森公園というキャンプ場が併設された森林公園を委託管理しております。そこでキャンプに来た親子を観察させていただいておりますが、自然体験が、好きな親に初めは無理やり連れてこられ戸惑い、面白くなさそうな顔をしていた子供が、二度目、三度目と回数を重ねるうちに自分で遊びを考え、森林の中で自由に遊びまわる姿を目の当たりにして、子どもってすごいなと改めて思いました。一番感じることは、同年代の子どもたちに比べてはるかに子供らしく、そして自分のことは自分でやれる、と感じております。

地域の大人たちも子ども会行事と称し、公園にバーベキューに来ておりますが、子どもよりはしゃいでおります。日頃野外で食事をすると聞いた経験が少ないため親子で楽しそうに話しているのを見て、私もほっこりさせてもらっております。やはり親が本心から楽しんでいないと子供も楽しめないんだと改めて思いました。



協働に向けて

活動・組織での悩み 困っていること

なんといっても、人材の確保と、専門知識が必要で、ある程度初期段階は当法人内で管理指導が可能ですが、競技活動をサポートできるスキルがないので、これからもっと学びたい、競技に出てみたいというような子供が出てきた場合難しいのと、子どもたちにはそこを目指してほしいと考えておりますのでこれらの課題でもあります。。

企業と協働したいこと サポートしてほしいこと

まずは、基本的な資金の投資と、専門に特化した人材の紹介、確保をお願いしたいと考えます。そしてこの地域の課題は、他の地域での課題でもあり、地域の良さを生かし、うまく循環していくことができれば、モデルケースになりうると考えます。

企業に向けてメッセージ

私たちの団体は、とにかく子供の将来を見据えて地域での自然体験を通して地域の良さを感じてもらい、将来この地域において各分野のリーダーとなり活躍し、恋をし、また次世代を育むと言ったもっとも普遍的なことを将来にわたりにわたりつないでいくことを目指しております。



12 NPO法人 劇団スターキャスト

■団体名: 特定非営利活動法人 劇団スターキャスト
 ■所在地: 〒979-0141 福島県いわき市勿来町蓬田町通一丁目
 42番地の1
 ■TEL: 090-4938-4302
 ■FAX: 0586-45-7000
 ■E-mail: info@stcone.com
 ■URL: <http://stcone.com/starcast/index.html>

以下は12月1日(金)いわき会場でのプレゼン資料です

特定非営利活動法人 劇団スターキャスト

発表者 星 陽一



2017年10月21日 いわき市立中央台北中学校
『オペラ座の怪人とフラボーイ』より

これまでの都内での製作舞台

ミュージカル「はだしのゲン誕生」
 ミュージカル「リボンの騎士」
 ミュージカル「魔法使いサリー」
 「英國少年團」
 ミュージカル「学園ヘヴン」
 ミュージカル「タクミくん〜そして春風にささやいて」
 ミュージカル「シンドバットの冒険」
 美童浪漫大活劇《八犬伝》シリーズ

以上から多数芸能界で活躍する男子を輩出。
 例・保坂尚希、小原正子、森山開次、古田一紀、染しんご、染谷俊之、鈴木崚樹 他

●設立のきっかけ

いわき市のミュージカル文化は、
 無いに等しく感じ、
 長年都内で、作品を製作して来
 た経験をもとに、
 地元演劇文化向上を
 目指すために、弊社NPOを
 設立しました。



●団体の目的

教育機関と連携し、芝居作り
 に参加させ子供達の資質力を
 アップさせる。
 1. 気力(やりとげる意志)
 2. 知力(読解力や知性向上)
 3. 体力(肉体訓練や発声)
 4. 表現力(積極性を養う)
 ★芸能産業創出し、地域より次世代
 のスターを発掘各地から集客する。



私たちの思い、考え

▶地域の課題

課題(1)
震災の影響下、
心の深層では、子供達が
まだまだ傷ついています。

課題(2)
消極的であり、
引込み思案(特に男子)
が、一世代前に比べて、
増えてきている。
子供を成長させない親にも問題有り。
ラインで全て済ませる。
子供を通して親と一緒に教育して
ゆきたい。

●目指す地域の姿

男子を奮起させ、
いわきや福島を担う、リーダー
を育成、地域を日本一に押し
上げてゆく。

※女子だけが元気では、
社会のバランスが崩れる
のは必至である。
地域よりスター輩出！
イベントが交流人口を増加
させ人口減少社会を克服する。
地元よりスター排出！
イベントが交流人口を増加させ
人口減少社会を克服する。

活動紹介

ミュージカル

「はだしのゲン誕生」

～中沢啓治自伝・母のゴンドラの唄
が聞こえる～

《全国公演展開中》

NHK、フジテレビ、テレビ東京、共同通信、毎日新聞、
福島民報、熊本新聞、信州新聞にて紹介



ミュージカル

「フラボーイ」

～いわき男子高校演劇部奮闘記～

2012年 築地ブディストホール
2016年 アリオス小劇場
2017年 中央台北中学校共催

【いわき市・福島県教育委員会後援】
テレビユー福島、福島中央テレビ、福島テレビ、福島放送、
福島民報、福島民友、いわき民報、いわきFM後援



地域、住民、ボランティア、 参加者の反応や変化

いわきの少年が、
東京にて「ゲン」を熱演！
※2016年は「フラボーイ」にも出演。



テレアポボランティアの皆様を
望んでいます。

中央台北中 男子生徒が出演！

皆自主性の元、互い協力し合って
舞台成功の為、己の資質を向上させました。
約1000名のお客様観劇し大盛況。
台風にも関わらず満員で、2018年1月は
都内、3月はアリオス公演を開催予定！



協働に向けて

活動・組織での悩み
困っていること

(1)優秀な人材不足

NPOでの人材育成や資金調達
即戦力となるマンパワー。

公演を販売する
テレアポボランティアを
募集しております。

(2)公演継続の資金

恒常的な資金
不足が続いています。

企業と協働したいこと
サポートしてほしいこと

●御社から出演希望者を選出。

●制作実費
(演出、音、照明、衣裳等
かかる経費)。

●稽古場や公演会場。
または、関連企業での開催地
紹介等。

協働によるメリット

御社様

1. 地域民間（特に子供）が御社とコラボしやすい。
2. 社会貢献と利益還元。
3. 会社が、地域の子供達を育成した事への、自信や誇り獲得。
社員教育の一環であり、イメージアップに繋がる。

弊社NPO

1. 資金確保。
2. NPOの信用度アップ。
3. マンパワー&システム
&ノウハウの確保。
4. 事業継続の可能性が高まってゆく。

企業に向けてメッセージ

共に、ミュージカルを作りませんか！

【企業メリット】

《夢・感動・魔法》をテーマとし、
協働作業により、人を生かし、顧客(社員)を満足させる。
芝居稽古を通じて、マンネリ感のある仕事に活力を！
「発声、肉体訓練、表現力」

強化で、《天国と地獄の特訓》



企業と一緒に実施したい事

【御社メリット】

表現力や、自主性がアップする。
御社との共同作業により人を生かし、顧客(社員)を満足させる。
エンタメに触れ、役者心を取り入れる事によって、
ルーティンワーク感到に陥りやすい社員を覚醒させられる。
共同作業によって、コミュニケーション力アップ。
ダンスシーンなどを助け合って覚える。

★楽しくもハードな「エンタメ系 天国と地獄の特訓」

《天国》演技や歌を訓練する事で、脳内快感物質「エンドロゲン」が放出され、病みつきになってゆく。

《地獄》……とまでは行かないが、肉体訓練や柔軟体操で、筋肉痛になり、台詞覚えも悪い自分に気付く。
発表の期限は迫る為、「失敗出来ない」「覚えられるだろうか」「恥をかきたくない」精神的プレッシャーが生じる。

(詳細別紙参照)

これまでの上演作品の一部



ミュージカル
『学園ヘヴン』
～ベルリバティプリンス～



ミュージカル
『緑色の欠片』
～運命の守護者～



ミュージカル
タクミくんシリーズ
～そして春風にささやいて～



美童浪漫大活劇〈第一部〉
『八大伝』



美童浪漫大活劇〈第二部〉
『八大伝』



美童浪漫大活劇〈第三部〉
『学園八大伝』

特定非営利活動法人劇団スターキャスト マスコットキャラクター“フェーマス”



(別紙)

- ① 団体名 特定非営利活動法人劇団スターキャスト
 - ② 設立のきっかけ いわき市(福島県内)演劇文化向上を目指す為。
 - ③ 目的 県内の子供達の資質アップ
※芸能産業創出(地域より次世代のスター発掘)
インバウンド、Uターン、Iターン
 - ④ 地域課題 子供達、特に男子が消極的であり、震災によって心の深層では傷ついたまま引込み思考、閉塞的
 - ⑤ 目指す姿 《心の復興》※芝居やミュージカルで自分の資質アップ。
 - ⑥ 活動内容 芝居作りに参加して貰います。
・肉體訓練(アップを兼ねて、基礎運動、柔軟体操)
・発声練習
・歌唱指導
・台詞稽古
 - ⑦ 活動での悩み、困っている事 具体的には、制作費です。
御社社員や、地元学生が参加する為にかかる費用(音響照明製作スタッフ費)提供をお願い致します。
 - ⑧ 企業と一緒に実施したい事
【御社メリット】表現力や、自主性がアップする。
御社との共同作業により、人を生かし、顧客(社員)を満足させる。
エンタメに触れ、役者心を取り入れる事によって、ルーティンワーク感に陥りやすい社員を覚醒させられる。
共同作業によって、コミュニケーション力アップ。
ダンスシーンなどを助け合って覚える。
楽しくもハードな「エンタメ系夢と地獄の特訓」演技や歌を訓練する事で、脳内快感物質「エンドロゲン」が放出され、病みつきになってゆく。
……とまでは行かないが、肉體訓練や柔軟体操で、筋肉痛になり、台詞覚えも悪い自分に気付く。
発表の期限は迫る為、「失敗出来ない」「覚えられるだろうか」「恥をかきたくない」精神的プレッシャーが生じる。
- 演目例 ミュージカル「オペラ座の怪人とフラボーイ」
- 【2つの参加パターン】
- ◆A 短期バージョン (上演時間約 10 分～)
その① 1 日で超簡単な作品を作る。(稽古約 5 時間程度以上～)

その② 3 日で簡単な作品を作る。(稽古 1 日約 4 時間×3 日)

参加希望人数 9 名以上あれば望ましいですが、その時の対応にて処理。
演出助手、音出し係、他スタッフをご準備下さい。
製作費 ①10 万円～ ②20 万円～(脚本、演出、交通費含む)

◆B 長期バージョン (上演時間約 15 分から)
その① のべ日数 10 日で制作。(稽古時間は 1 日約 4 時間以上)
その② のべ日数 20 日で制作。(")

参加希望人数 こちらは 9 名以上お願いします。
スタッフは A と同じくご準備下さい。
※稽古時間が増えるのでクオリティは上がります。
製作費 ①30 万円～ ②45 万円～

◆スペシャルバージョン
アリオス小劇場などで本格的に公演するパターンもあります。
稽古は準備も含め約 3 カ月以上あると助かります。
製作費 最低 150 万円～
スタッフ 音響、照明スタッフはプロ業者が担当。
本格的な作品を制作します。

「フラボーイ」の公演実績
初演 2012 年 5 月 築地ブディストホール 主演/山下翔央(元ジャニーズ jr)
再演 2016 年 8 月 いわき芸術文化交流館アリオス主演/廣 太(元関西ジャニーズ)
学校共催
2017 年 10 月 21 日 中央台北中学校にて 生徒さん達、近隣高校生出演
天美 幸 1961/4 18 (56) プロフィールご紹介
いわき市勿来町出身。湯本高校卒業後桐朋学園短期大学演劇科入学。ミュージカル劇団「音楽座」を経て、劇団スターキャストを立上げ、オリジナル作品等を東京芸術劇場や都内小・中・大劇場にて製作上演。帝国劇場「風と共に去りぬ」(松平健・大地真央主演)等商業演劇や石ノ森章太郎氏に師事し「スキャンダル刑事」(南野陽子主演)「兄弟拳バイクロッサー」など TV ドラマにも出演。
漫画原作や、シナリオ本など多数出版されています。

ミュージカル「はだしのゲン誕生」「魔法使いサリ」「リボンの騎士」「シンドバッドの大冒険～魔神島の決戦～」(オリジナル)元ジャニーズタレント多数出演「BOYS☆GIRLS」「学園へヴン」「緋色の欠片～時空の守護者たち～」「緋色の欠片～チャラチャボーイズ&トークライブ」「タクミくんシリーズ～そして春風にさやいて～」「～美童漫大活劇～ 八大伝《第一部》」「～美童漫大活劇～ 八大伝《第二部》」「学園八大伝」(漫画原作も光文社より刊行)「フラボーイ」～いわき男子高校演劇部奮闘記～ 上記舞台より舞台俳優多数輩出

13 NPO法人 マグノリアの灯

■団体名: 特定非営利活動法人 マグノリアの灯
■所在地: 〒969-0401 福島県岩瀬郡鏡石町境445番地
■TEL/FAX: 0248-94-7353
■E-mail: info@magnolias-licht.org
■URL: <https://magnolias-licht.org/>

以下は12月1日(金)いわき会場でのプレゼン資料です



NPO法人 マグノリアの灯

発表者: 橋本京子

●設立のきっかけ

- 東日本大震災、福島第一原発の放射能事故は、私たちの生き方そのものに問いを投げかけ、その結果原子力に頼らない生活を模索する様々な取り組みが生まれました。私たちのNPO法人マグノリアの灯(2013年9月認可)もそうした流れの必然性から生まれてきています。思いを同じにするグループと歩調を合わせると同時に、私たちオリジナルの活動をご紹介しますことで、互いに交流し、健やかな未来のために役立ちたいと考えています。



ムーア・ラベンダー・オイル
WALA社が日本に寄付してくださった泥炭を素材にしたオイル(化粧品)で、ラヴェンダーの優しい香りが心も体も包み込んでくれます。

●団体の目的

- この法人は、東日本大震災、原発事故による放射能汚染に対して、環境の改善、人々の健康増進に関する事業を、地球規模の視点、長期的な展望を持って継続的に行い、人類の進歩、発展に寄与することを目的としています。
- 中でも子どもの健全育成を図る活動として、ホリスティックなコミュニティを創造していくことを特徴としています。

※ホリスティックとは、「全体的」の意味で、老若男女や地域・自然との絆を大切にする考え方のことです。



私たちの思い、考え

▶地域の課題

- 原発事故による放射性物質による大地の汚染
- ・福島野菜は食べない
- ・放射能汚染による健康被害に対する不安
- 放射能汚染問題以前からある地域課題
- ・耕作放棄地
- ・農業の後継者不足

▶目指す地域の姿

- 福島で農業を
 - ・「福島野菜は食べない」という人たちがいまだに多い中、福島で、安全かつ美味しい野菜づくりをしていくことは、大きな意味があります。確かな農業技術に、優れた放射能対策で、震災以前よりも良い状況をつくることを私たちは目指しています。



活動紹介

- 第2木曜日17:00～21:00マグノリア勉強会
- 年4回特別講座
- ・ 司祭と医師の講座
- ・ 農業講座
- ・ お月見お茶会
- ・ バイオダイナミック農業対談

- 無料医療相談
- 建築法の研究
- バイオダイナミック農法の研究・実践
- 薬草の研究・開発へ向けた準備



地域、住民、ボランティア、参加者の反応や変化

- ・ 農業に関して無知ですが、自然、宇宙の中に存在する自分(人間)の認識について深く考えさせられました。農業に限らず、自分と自然の関係を俯瞰することが大切だと思っています。
- ・ 建築家さんの話は、驚きと共に良い学びをさせてもらいました。漆喰のこと、珪藻土の壁の事実、ある意味ショックを受けました。
- ・ 改めて水の大切さに驚きました。
- ・ 農業者の実体験に裏打ちされた話と、講師のバイオダイナミック農法の知識と両方が聴けて良かった。
- ・ 畑見学から対談まで、いい企画でした。農に加えて建築の視点からケイ素やカルシウムの話が聴けて楽しかった。



ソラムオイル
WALA社がつくる泥炭素材のオイル
(医薬品)で、リウマチや癌などの疼痛
緩和に用いられ、光のオイルとも言わ
れています



協働に向けて

活動・組織での悩み 困っていること

- ・ 将来的には、自前で講座開催を目指す。
- ・ 現段階としては、各々が研究段階のため、当面外部講師を招いた講座を開催する。
- ・ そのため、講師への謝礼や交通費等の経費が不足気味。

企業と協働したいこと、 サポートしてほしいこと

- ・ 県内で農業を営んでこられた方の参加を促したいので、講座参加費の負担を減らしたい。
- ・ そのため、講座開催諸経費(交通費、謝礼等)にあてる資金の提供をお願いします。

企業に向けてメッセージ



- ・ 「土地は先祖からの授かりものではなく、子ども達からの預かりもの」
- ・ 「なにを為すのであれ、今から7世代後の子供たちの影響を考慮して行わなくてはならない」
(※ネイティブ・アメリカンの言葉より)
- ・ 原発事故後、目先の利益重視の意識が変わりました。医食住の視点から、子ども達の未来に残せるコミュニティーを創造していきたいと考えています。

